

第7回東九州自動車道（清武～北郷）トンネル施工検討会 議事概要

○日時 平成26年2月27日（木） 14:00～17:00

○場所 宮崎河川国道事務所 1階大会議室

○出席者

- ・委員 横田委員長、瀬崎委員
- ・事務局 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所

○議事

- ・前回検討会までの経緯（報告）
- ・九平トンネル地すべり
- ・九平トンネル構造
- ・芳ノ元トンネル施工状況（報告）

○審議結果

（九平トンネル地すべり）

- ・地形判読、地すべり観測結果等より、九平トンネル周辺には5つ（A～E）の地すべりブロックが存在しており、各々の地すべりブロックについて、すべり面位置、要因、活動状況等を確認。
- ・地すべり変位が明瞭な地すべり面の深さは5～10m程度の浅いすべりであるが、地質調査結果では、深さ20m以上にも破碎部が存在しており、より深い地すべりが想定されることを確認。
- ・想定地すべり面の精度向上及び斜面動態観測を行うため、地中変位や地下水位観測等の追加調査を実施する。

（九平トンネル構造）

- ・追加地質調査の結果、九平トンネルの地質は芳ノ元トンネルと同一の脆弱な日南層群混在層が主体であることを確認。
- ・トンネル構造及び調査導坑の採用は、芳ノ元トンネルの施工状況や計測結果等を踏まえ、再度検討を行う。

「東九州自動車道（清武～北郷）トンネル施工検討会」 規約

(名 称)

第1条 本検討会議は「東九州自動車道（清武～北郷）トンネル施工検討会」（以下「検討会」という）と称する。

(目 的)

第2条 検討会は、次の各号に掲げる事項を審議及び検討する。

- 一 地すべり対策
- 二 トンネル構造及び施工方法
- 三 トンネル掘削再開の妥当性
- 四 その他検討会において必要と認めた事項に関する事。

(組織構成)

第3条 検討会は、学識経験者等をもって構成し、委員は別紙「委員名簿」のとおりとする。

- 2 検討会に委員長を置き、委員長は会務を総括し検討会を代表する。
- 3 委員の追加及び変更は、検討会の承認を要するものとする。
- 4 検討会は、必要に応じて、専門家や有識者等の参加を求めることができる。

(第三者性)

第4条 委員は、検討会の目的に照らし、公正中立な立場から特定の行政機関及び特定の利害関係者等の利害を代表してはならない。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、検討会の検討事項が終了するまでとする。

(委員長)

第6条 委員長が、職務を遂行できない場合は、予め委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(検討会の運営)

第7条 検討会は、委員長の発議に基づいて開催する。

- 2 検討会は、会の運営にあたり必要な資料等を事務局に求めることができる。

(守秘義務)

第 8 条 委員は、公開することが望ましくない個人情報等について漏洩してはならない。

(審議内容の公開)

第 9 条 検討会議事概要については、委員の了解を得た上で速やかに公開するものとする。

(事務局)

第 10 条 検討会を運営するため、事務局を「国土交通省 九州地方整備局及び国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所」に設置する。

(その他)

第 11 条 本規約に定めるもののほか必要な事項は、その都度検討会において審議して定めるものとする。また、本規約の改正等は、本検討会の審議を経て行うことができるものとする。

附 則 この規約は、平成 24 年 6 月 20 日より施行する。

この規約は、平成 26 年 2 月 27 日一部改正、平成 26 年 2 月 27 日より施行する。

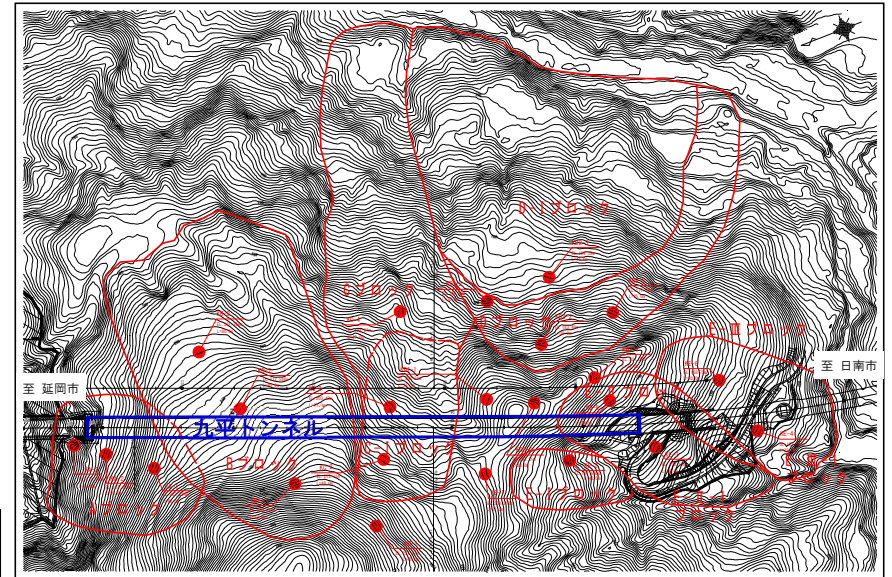
「委員名簿」

委員長	横田 漠	宮崎大学 国際連携センター 客員教授
委員	瀬崎 満弘	宮崎大学 工学部 准教授
	真下 英人	独立行政法人土木研究所 道路技術研究グループ グループ長
	石井 靖雄	独立行政法人土木研究所 土砂管理研究グループ 地すべりチーム 上席研究員
オブザーバー	直原 史明	宮崎県 県土整備部 高速道対策局長
	久保 三男	宮崎市 建設部長
	野邊 泰弘	日南市 建設部長
事務局	国土交通省九州地方整備局	
	〃	宮崎河川国道事務所

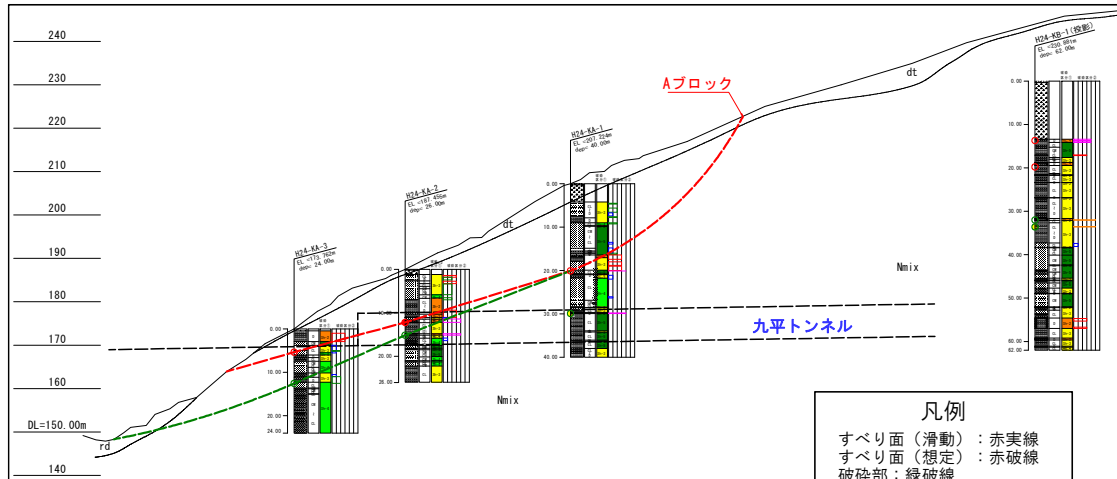
九平トンネル地すべり

概要

- 地形判読、地すべり観測結果等より、九平トンネル周辺には5つ（A～E）の地すべりブロックが存在しており、各々の地すべりブロックについて、すべり面位置、要因、活動状況等を確認。
- 地すべり変位が明瞭な地すべり面の深さは5～10m程度の浅いすべりであるが、地質調査結果では、深さ20m以上にも破碎部が存在しており、より深いすべりが想定されることを確認。
- 想定すべり面の精度向上及び斜面動態観測を行うため、地中変位や地下水位観測等の追加調査を実施する。

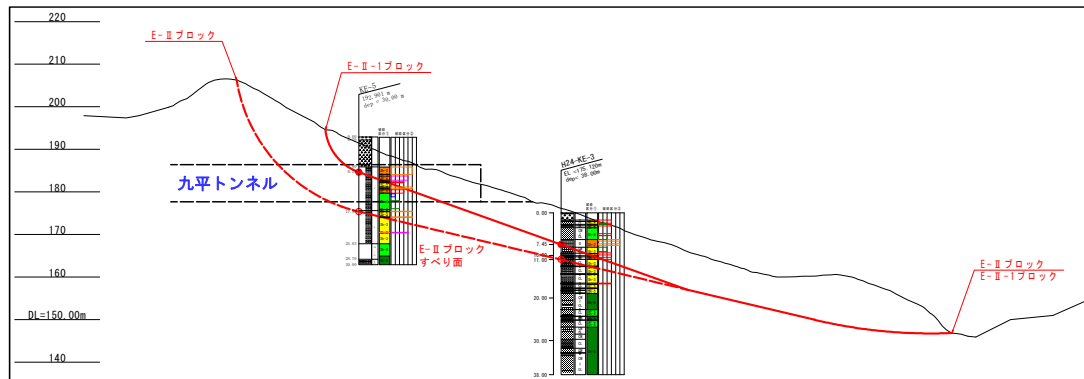


■地すべり平面図



■地すべり断面図（起点側坑口部 Aブロック）

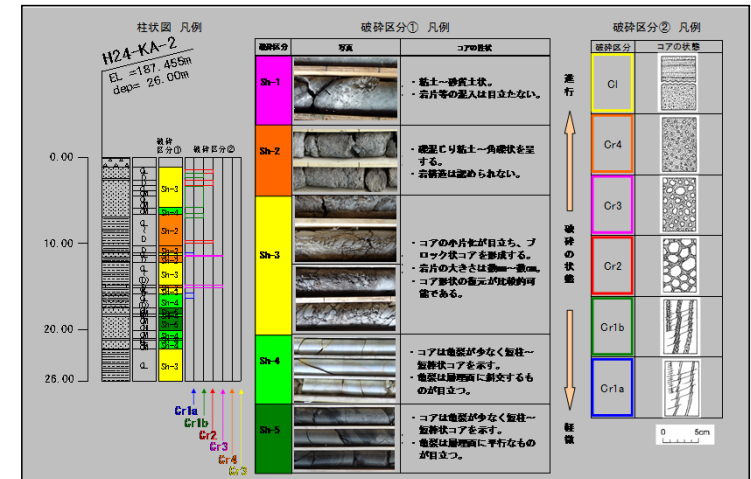
凡例
 すべり面（滑動）：赤実線
 すべり面（想定）：赤破線
 破碎部：緑破線



■地すべり断面図（終点側坑口部 E-IIブロック）



■ボーリングコア観察状況（左写真）及び現地調査状況（右写真）



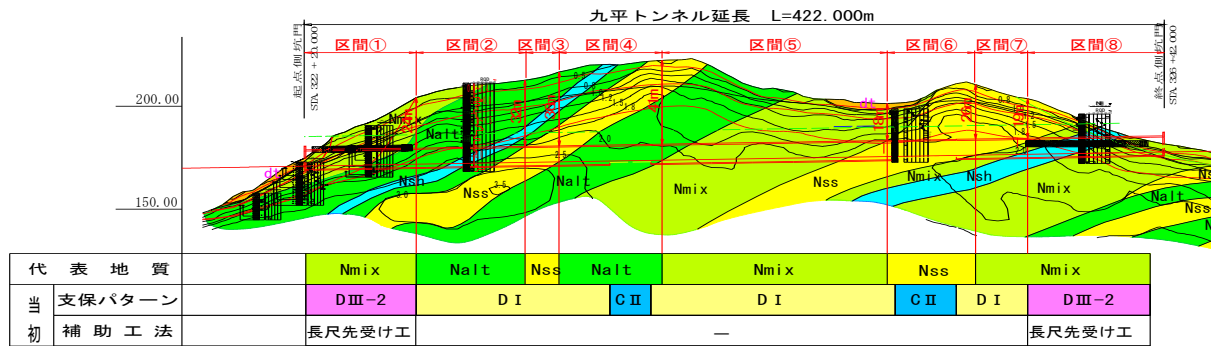
■地質調査ボーリングコアの破碎区分の実施

九平トンネル構造

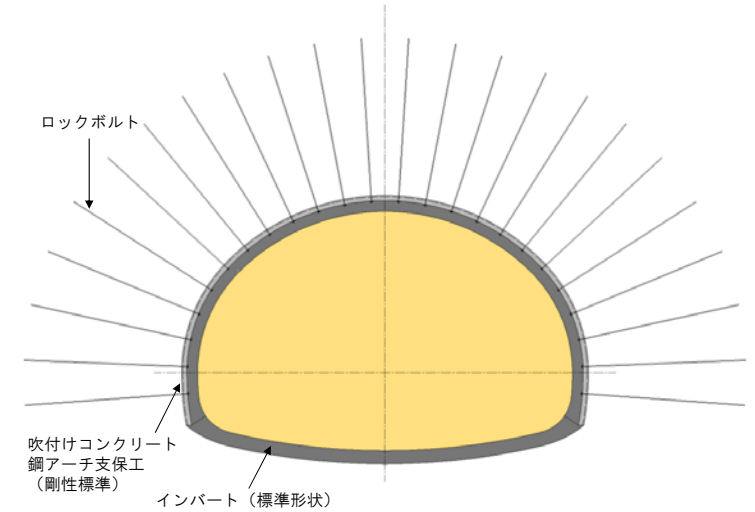
概要

- 追加地質調査の結果、九平トンネルの地質は芳ノ元トンネルと同一の脆弱な日南層群が主体であることを確認。
- トンネル構造（断面形状、支保構造、補助工法）及び調査導坑の採用は、芳ノ元トンネルの施工状況や計測結果等を踏まえ、再度検討を行う。

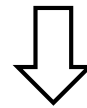
当初想定地質・支保パターン



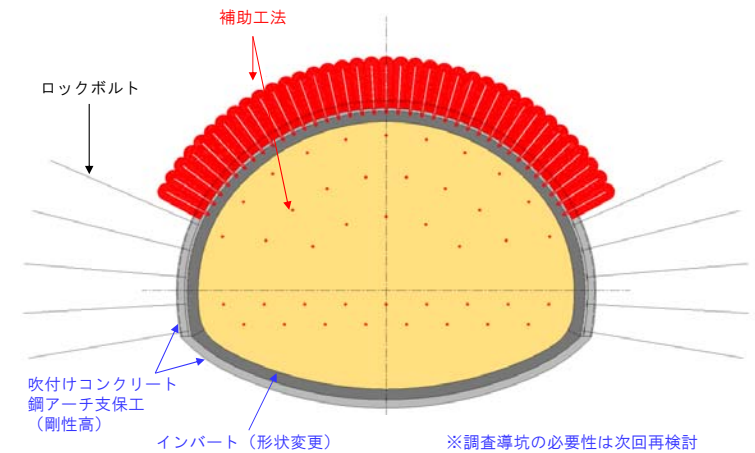
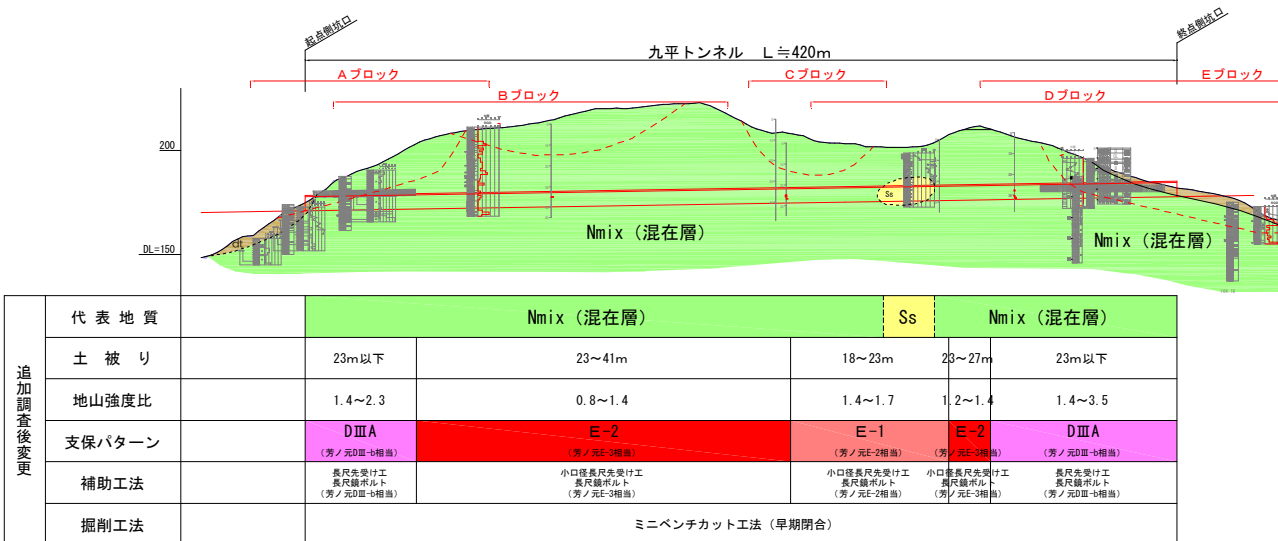
※凡例 Nmix：砂岩頁岩混在層, Nalt：砂岩頁岩互層, Nss：砂岩, Nsh：頁岩



変更想定地質・支保パターン (案)



- ・追加調査の実施
- ・芳ノ元トンネル知見の反映



※調査導坑の必要性は次回再検討